

イエス・キリストは主です！

はじめに

先週の日曜日、オンラインでの礼拝に参加されたか、神様の愛についてのユウンさんのメッセージを週の間に観られたなら、きっと祝福され励ましを受けられたと思います。ユウンさんのメッセージは、ローマ人への手紙8章32-39節からでしたが、ここで使徒パウロは、神様の愛を高らかに誉めたたえて宣言しています。この御言葉は2000年近くの間、神様の民たちにとって祝福となってきました。

私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。（新改訳2017）

私たちの造り主の愛は、非常に多くの方法で、いつも私たちに示されています。この愛は、パウロがローマ人への手紙5章8節で言ってるように、イエス・キリストにあって最も力強く、私たちに明らかにされます。私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。そのメッセージの中で、私たちの造り主が全世界に告げられた「良き知らせ」は、この短い一文に要約できることを見ました。

イエス・キリストは主です。

まだこのメッセージを観ておられないなら、福音についてのメッセージシリーズの第1回目ですので、ぜひチャペルのウェブサイトからご覧になるか、ポッドキャストで聴いてください。福音に関係する様々なテーマを、今後また別のメッセージで見えていきますが、その前に今朝は、この福音を要約した言葉を、もっと詳しく見ていきたいと思ひます。

今朝、ローマ人への手紙8章39節で始めたのは、先週の日曜日のユウンさんのメッセージが、今日のメッセージの土台をも作るものだからです。福音の要約と、39節のパウロの言葉には似ている点があることに、気づかれた方々がおられるでしょうか。

39節でパウロは、「私たちの主キリスト・イエスにある神の愛」を強調していますが、福音の要約もまた「イエス・キリストは主」です。

罪深い反抗的な人間に、神様が救いの手を差し出された一番の動機が、神様の愛だからこそ、聖霊様が、この言葉を書くようにパウロを導かれたのだと、私は確信しています。

そして「キリスト・イエスにある」私たちへの神様の愛こそ、福音の中心にあるものです。では福音の中心が、神様の愛であることを理解した上で、今朝は福音の要約に見られる、3つの名前について見ていきたいと思ひます。

3つの名前とは、イエス、キリスト、そして主です。

I. 復習

このシリーズの最初のメッセージで、私がお伝えしようとした重要なポイントがあります。「福音、もしくは、良き知らせ」は、私たちが罪を赦されて、死んだ後に天国に行けるために、知って信じる必要がある単なる情報ではなく、それ以上のものです。「福音」と訳されているギリシア語の言葉は、イエス様の時代には、新しい王様や皇帝が誕生するか、王座に即位された時に使われました。

ですので、造り主なる神様が、私たちに告げられた良き知らせは、どうすれば、いつの日か天国へ行けるのか、だけでなく、はるかに大きく壮大なものです。もちろん、私たち一人一人の救いは、良き知らせの重要な面の1つです。このあと詳しく見ていきます。けれども、イエス様と使徒たちが宣べ伝えた福音のメッセージの主な焦点、中心は、あなたや私のような罪深い人間ではありませんでした。福音とは、私たちの間に住まれ、全世界の罪のために死なれ、死者の中から復活された、救い主でありメシアであるイエス様についてです。

2週間前に、第1コリント人への手紙15章28節を見たように、福音の最終的な目的は、すべてのものが主イエス・キリストに従い、神様が、すべてにおいてすべてとなられることです。イエス様は、私たちの救い主として死なれただけではなく、復活され、すべてを治める主として高く上げられました。

そうであるなら、弟子となり、私たちの主としてイエス様に従うことは、クリスチャンとして欠かせない重要なことです。つまり福音は、**私たちが自分の人生すべてを、イエス様の主権のもとに持ってきて捧げることです。**また福音とは、救いによって、罪のうちに失われ死んでいた人たちが、この世界の中で、イエス様がなさっている働きに加わることができるようになることです。

イエス様は今、愛と癒しを注いで、悪に落ちてしまった(墮落した)世界を回復するため働かれています。その働きのほとんどを、私たちを通してすることを選びました。あなたや私のような、罪から救い出され、赦され、聖霊様によって力を与えられた人々を通して、出会う全ての人たちに主の愛を分かち合っておられます。

では3つの言葉、イエス、キリスト、主が何を表しているのか考えていきましょう。

II. イエス・キリストは主である！

A. イエス= 救い主

日本語ではイエスですが、ヘブル語ではイェシュアという名前で、「ヤハウエは救う」または「ヤハウエは救い」という意味です。ヤハウエとは、「わたしはある」と宣言された、造り主である神様のヘブル語のお名前です。マタイによる福音書1章20-21節で、御使いガブリエルがヨセフに告げたのは、イエスの名前の意味でした。「ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

イエスという名前を、実際のヘブル語の名前に置き換えるなら、ガブリエルがヨセフに言った言葉はこうなります。

「その名を『ヤハウエは救う』とつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

マタイは、「ヤハウエは救い」と名付けられたこの男の子は、実際には人間の肉体をとられたヤハウエとなられることを、次の二節で非常にはっきりと記しました。

このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

「イエス・キリストは主です」この福音とは何かを示す一文を考えると、最初に分かることがあります。

福音の良き知らせは、人生を変える真理に関わっているということです。

その真理とは、造り主である神様が、罪の結果と罪の力から、私たちが救われる道を与えてくださったということです。

神様はこのことを、王としての栄光も威厳も捨てて、人間となることによって成し遂げてくださいました。

なぜそこまでしてくださったのでしょうか？

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

大きな愛と憐れみによって、父なる神様は、私たちの身代わりに死ぬために、イエス様(ヤハウエは救い)を送ってくださいました。

私たちが、神様と他の人たちにおかした罪の罰を身代わりに負うために、父なる神様は、罪のない贖いのいけにえとしてイエス様を与えてくださいました。

私たちが神様の子どもとなり、永遠のいのちを持つことができるようになるためにです。

そうではなく、永遠のいのちとは、私たちの造り主と個人的な親しい関係を持つことで、イエス様がヨハネによる福音書17章3節で言われたように、父なる神様と神様の御子、聖霊なる神様を知ることです。

皆さん、だからこそ福音にある「イエス」というお名前がとても重要なのです。

だからこそ、使徒パウロはローマ人への手紙1章16節で、「福音は、... 信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」と書きました。

また第1テモテの手紙1章15節で、

「キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られた」ということばは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。」(新改訳2017)と書いた理由でもあります。

あなたは罪の奴隷となっていて、あなたから豊かな人生を奪い去ってしまう罪をやめられない状態でしょうか？

過去に言ったり、してしまったことで、罪悪感や後悔や恥に襲われ、打ちのめされているでしょうか？

おかしてしまった罪のせいで、人間関係が傷ついたり、体調を崩したり、仕事を失った経験がありますか？

福音の良き知らせとは、罪からの救い主がいることと、あなたは赦(ゆる)されることができることです！

そして、イエス様、イエシュアにより、人生の中の罪の力に打ち勝つことができます。キリストは主です！

B. キリスト =メシア

ルカによる福音書1章30-31節で、ガブリエルがマリヤに「あなたは救い主の母親になる」と告げたとき、このように言いました。

「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。」

ガブリエルはヨセフに伝えた同じことを、マリヤにも言いました。生まれる男の子の名を、イエスとつけなさい。

しかしガブリエルは、さらにマリヤには、心が高鳴ったに違いないことを伝えました。

聖霊様によって、奇跡的にみごもるその男の子は、いと高き神様の子と呼ばれる。

そしてその子どもは、ダビデ王の王位を与えられ、その王国は決して終わることはない。マリアの子どもは、人々が長く待ちわびていたメシアになるのです。

福音の要約の、2番目の言葉は「キリスト」です。

メシアとは「油を注がれた者、選ばれた者」という意味で、日本語では「キリスト」と訳されているギリシア語の言葉は、クリストスという言葉にあたります。

ですので、イエス・キリストとは、「メシアであるイエス」という意味です。

主イエス様がメシアでもあるとは、一体どういう意味でしょうか？

正直に言って長年の間、私自身このことを、あまり考えたことがありませんでした。

最初のメッセージでお話したように、私は福音というのは、個人個人の救いのことだと、ずっと教えられていました。

ですので「メシア」は「救い主」の別の言い方だろうと思っていました。

でも実はメシアには、それ以外の多くの意味があります。

聖書が書かれた時代には、男性は油を注がれることにより聖別されて、大祭司や預言者、王様のような特定の力ある立場に就きました。

アロンはイスラエルの大祭司として油を注がれました。

預言者エリヤは、自分の次にイスラエルの預言者となるように、エリシャに油を注ぎました。

サウルもダビデも、イスラエルの王となるよう、預言者サムエルによって油を注がれました。

今名前をあげた男性たちは当時、油を注がれた権威ある地位に就いていましたが、

神様は、**しもべである**統治者がいつの日か現れて、救いと正義を世界の国々にもたらすとも、約束されていました。

ユダヤ人たちは、この救世主(救い主)をメシアと呼んでいました。

イエス様が祭司であり、預言者であり、1人の王であったことが、イエス様がメシアであることを示しています。

イエス様は私たちの大祭司であり、私たちと父なる神様の間の完全な仲介者です。

イエス様はまた昔の預言者たちと同じように、やがて来る神の国について宣べ伝え、やがて来る裁きについて人々に警告する預言者でもありました。神様がすべての権威をお与えになったからこそ、イエス様は王であり、地上で神様の王国を治めるために、いつの日か戻って来られます。

「イエス様がメシアである」とは、どのような意味なのかを理解する唯一の方法は、創世記から黙示録まで、聖書全体を一つの「壮大な物語」として理解することです。このことについては別のメッセージをしようと思っていますが、この壮大な物語を、簡単にざっくり表現してみるならこのようになります。初めに唯一の真の神様は、全宇宙とそこにある全てをお造りになり、その全ては「良い」と宣言されました。

造られたものの中で、最も素晴らしい生き物は、男と女で、アダムとエバでした。

アダムとエバは、神様が創造された世界を治めて、世話をするために造られ、神様と親しい関係を楽しんでいました。

しかし彼らは、神様に逆らうように誘惑され、実際にそうしてしまった時に、罪が神様の完全な世界に入ってきて、すべては損なわれて(墮落して)しまいました。神様は、将来いつの日か、人間の罪の結果を元に戻す誰かを遣わすと告げられました。そしてついには、神様は悪に墮ちてしまったこの世界を、初めに創造された時の、罪の全くない完全な世界へと回復されます。神様はノアやアブラハム、イサク、ヤコブといった様々な人々と契約を結ばれました。

神様がそうされたのは、イスラエル民族を準備し、イスラエルを通して、全世界を祝福するという目的のためでした。そして神様はすべてのことを正しくするために、最終的にはイスラエルから1人の人を送られました。— その方がメシアです。

ユダヤ人たちは、自分たちのメシアはローマ人を追い出して、エルサレムから世界を治める勝利の王様だと考えていました。

イエス様は確かにメシアでしたが、シュロの聖日のメッセージで見たように、苦難を受けられたしもべの姿のメシアとして来られました。イエス様は、全世界の罪の罰を負われた神の小羊として来られ、自分の罪を悔い改めてイエス様に信仰をおく全ての人が、救われることができるようにしてくださいました。また、イエス様が来られたことによって、救いと罪の赦しが可能になっただけではありませんでした。イエス様が死者の中から復活されたとき、死に勝利されただけではなく、アダムとエバを誘惑した者にも、打ち勝たれました。聖書の中では、この存在はサタンと呼ばれていますが、告発者という意味で、悪魔のことです。サタン、悪魔こそが、アダムとエバが最初の罪をおかして以来、世界に存在するすべての死と滅び、悪、墮落の背後にいるものです。

福音の良き知らせは、メシアがすでに来られたこと、そして将来もう一度来られることです。

そしてイエス様が戻って来られるときには、神様の創造された完全な世界を台無しにした、全ての悪と墮落はついに終わりを迎えます。病気や死、苦しみ、不正、自然災害、他にもアダムとエバの罪の結果、この世界に入った全てのものは完全に終わりなくなります。その時まで、イエス様はすべての人を、「すでに始まっているが、まだ来ていないイエス様の王国」の国民となるように招いておられます。イエス様が戻って来られる以前に、主イエス・キリストに自分を捧げて従うと約束して、死を迎える人たちは、イエス様と共にいるために天国に行きます。

けれども天国で過ごすのは一時です。イエス様が地球に戻って来られるとき、すでに死んだ人たちは、新しい、復活の身体をいただき、永遠にイエス様と共に生きるのです。もしそうなら、福音の良き知らせは、メシアがすべてを正しくするためにすでに来られたということです。今の時、イエス様は一人一人の人生の中で働かれています。しかしいつの日か必ず、イエス様はこの地上でご自身の王国を建てられ、治めるために戻って来られます。そしてついには、私たちが生きるこの地球を造り変えて、創造の初めの完全な姿に戻されるのです。

あなたは、信仰と悔い改めによって、メシアであるイエシュアの王国の国民ですか？ そうでないなら、イエス様に反抗することをやめて、信仰により、メシアであり、主であるイエス様にあなたの人生を捧げて従うことを約束するなら、王国の国民となれます。福音の良き知らせは、メシアがすでに来られたことと、将来、再び来られることです！

C. 主= 主人

このことは福音の要約の3番目の言葉「主」につながります。ペンテコステの日、聖霊様が教会にいのちを与えた時に、ペテロはイエス様に関するメッセージを、使徒の働き2章36節の言葉で締めくくりました。「イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」主という言葉は、イエス様を指し示すために聖書の中で最もよく使われている言葉です。イエス様のことを示す「主」は、新約聖書に500回以上使われていますが、一方で「救い主」は25回程度しか使われていません。新約聖書で「主」と訳されているギリシア語の言葉には、主人、最高の権威者、王、所有者、の意味があります。今日の社会では、誰も他の人に自分のことを支配してほしくないですね。

けれども私たちは、誰一人として自由ではない、ということに気付いておらず、悪魔は数えきれない人々がこのことを理解できないようにしています。

あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、罪から解放されて、義の奴隷となったのです。

この箇所から、私たちは皆、罪と悪魔の奴隷であるか、義と主の奴隷であるか、どちらかであると分かります。

今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たでしょうか。それらのものの行き着く所は死です。しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです

そしてパウロは23節で、驚くばかりの真実を強調しています。「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」

一度、福音のメッセージは「イエス・キリストは主です」だと考え始めると、この3つの言葉が、聖書で、同じ節の中に何度も何度も見られることに驚かされます。

あなたは何の、もしくは誰の奴隷となっていますか？

あなたの罪の奴隷になり、厳しく、あなたを責め立てる、憎しみに満ちた主人である悪魔の奴隷となっていますか？

それともあなたは、義の奴隷であり、愛と忍耐、赦しに満ち、真実で柔和な主人であるイエス・キリストの奴隷となっていますか？

あなたは周りの人たちに、キリスト・イエスの愛と赦しを分かち合う源となって、この世界が、少しでもより良い場所となるのを助けるような生き方をしていますか？

それとも、自分のために生活し、永遠には価値がない、一時的なもののために生きているでしょうか？

悪魔はひどく残酷な主人で、私たちの人生や幸せだけではなく、神様が造られた世界のすべての良いものも破壊しようと、ありとあらゆることをしています。

しかし福音の良き知らせは、イエス・キリストが主であり、良い、素晴らしい主であることです。

私たちは悪魔の支配と罪の力から自由になることができます。

悪魔と罪と死に、十字架で打ち勝たれたお方の主権のもとに、自分をお捧げすることを選ぶことができます。

そうすれば私たちも、たった今イエス様がこの世界でなさっている働きに、加わることができるのです。

結論

イエス様、イエシュアは、罪と悪魔から私たちを救うお方です。

イエス様はキリストです。私たちと造り主との関係を回復するために来られたメシアであり、いつの日かこの世界を、もとの罪のない栄光に満ちた世界へと回復されます。

イエス様は主です。私たちの主人となる権利のあるお方で、私たちが日々の生活の中でお仕えするべき方です。

あなたがまだ、主イエス・キリストを、イエシュア、あなたを救うことができる造り主として知らないのであれば、

「救われるためには、何をしなければなりませんか。」

「主イエスを信じなさい。」

クリスチャンの皆さん、あなたの人生を完全に、イエス・キリストの主権に従うとお捧げしましたか？

あなた自身と賜物、時間やお金を捧げて、この墮落した世界を贖おうとしておられる神様の働きに、積極的に加わっていますか？

そのように生きるよりも、もっと報いのある生き方はありません。

.....

祈り

あなたは、私たちが自分一人で、罪と罪の結果を取り扱わないいけないようにされなかったことを感謝します。

罪からの救い主、世界に存在する全てを正しくするために、いつの日か戻って来られるメシア、素晴らしい、柔和で真実な、忍耐深い主という、良き知らせを感謝します。

あなたは御言葉の中で、いつの日かイエス様が戻って来られた後、すべての膝はかがみ、すべての舌はイエス・キリストは主であると告白すると言われていました。

どうかこのメッセージを聞く一人一人が、私たちの主であるイエス・キリストに信仰をおき、自分を捧げて忠実に従うと約束できますように。イエス様のことをできる限り伝えることができるよう助けてください。

どうか、私たちの主イエス・キリストと、私たちの父なる神、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めと素晴らしい望みとを与えてくださった方ご自身が、あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように。